



多摩六都科学館 事業評価報告書

平成26年度～平成28年度（3カ年）の中期計画における
平成28年度及び3カ年の実績報告ならびに事業目標の達成度等に関する評価報告

本報告書の構成

多摩六都科学館における事業評価の基本的な考え方	1頁
多摩六都科学館事業評価票	
1. 指定管理者による自己評価ならびに外部評価 —5つの事業目標ごとの評価— ①～⑤	2～15頁
2. 多摩六都科学館組合による自己評価ならびに外部評価	16～19頁
3. 総評 使命ならびに活動理念の評価	20～21頁
参考資料	22～24頁

平成29年6月

多摩六都科学館組合

指定管理者：株式会社 乃村工藝社

1. 多摩六都科学館における事業評価の意義

多摩六都科学館は、平成25年度に策定した第2次基本計画（平成26年度～平成35年度）に基づき、事業評価を実施する。事業評価を導入することによって、基本計画に掲げた使命ならびに事業目標の達成度や事業の取組姿勢・進捗状況が検証可能な中長期的目標管理システムの構築をめざす。

評価結果を事業の修正、翌年度の予算編成や事業計画に反映させ、計画（Plan）－実行（Do）－評価検証（Check）－改善（Action）のPDCAマネジメントサイクルを機能させ、継続的な業務改善・サービスの向上を図られるよう努める。また、評価結果を公表することにより、構成市ならびに圏域市民に対して、公の施設としての社会的説明責任を果たし、公的事業の透明性を図るものとする。



2. 事業評価の進め方

平成26年度は試行として進め、業績指標・検証方法などの検討を行い、本格導入は平成27年度からとする。多摩六都科学館の事業評価は、中期で事業方針を定め、その進捗状況や目標の達成度を経年変化で検証する。第1期は平成26年度～平成28年度の3力年。

各年度の事業評価は、多摩六都科学館組合と指定管理者が自己評価（1次評価）を行い、さらに事業評価委員会（構成員は科学教育や博物館運営に関わる有識者と圏域の市民）による外部評価（2次評価）を行い、その結果を事業評価報告書としてまとめ、事業報告書とともに構成五市に報告し、情報公開という流れで実施する。

		第2次基本計画の期間（H26～H35）									
年度		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35
			2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
中期		3力年			3力年			3力年			

3. 事業評価の概要

評価実施者	評価の種別	概要（評価対象ならびに進め方など）
指定管理者	自己評価 1次評価	第2次基本計画に定めた「使命」ならびに「活動理念」「5つの事業目標」に沿って、指定管理者が定めた「事業計画の基本方針」（中期3力年の事業目標）の進捗状況・妥当性・達成度・有効性について、年度毎に自己評価を行う。指定管理期間終了年度には中期における取組について総評を行う。各年度の事業結果の詳細は、「事業報告書」をとりまとめ、報告・公表する。
多摩六都科学館組合	自己評価 1次評価	第2次基本計画に定めた「使命」ならびに「活動理念」「5つの事業目標」が達成できるよう、計画された「重点戦略」および「中期で重点的に取り組む戦略」のうち、組合が推進すべき取組について、進捗状況・妥当性・達成度・有効性について、年度毎に評価を行う。指定管理期間終了年度には中期における取組について総評を行う。
事業評価委員会	外部評価 2次評価	第2次基本計画に定めた「使命」ならびに「活動理念」「5つの事業目標」に向かって科学館の管理運営を推進できたかを、年度毎に外部評価を行う。指定管理期間終了年度には中期における取組について総評を行う。

4. 業績指標の検証方法

多摩六都科学館では、下記方法で業績の検証を行う。数字だけでは実態を把握できない取組姿勢や進捗状況なども定性的に自己評価し、中長期的な目標の達成度を検証できるように試みていく計画である。

類型	検証時期	検証方法	ベンチマークス	調査実施者
A	毎年	結果データを定量的に検証	経年変化を検証	指定管理者
B	毎年	取組内容を定性的に検証	経年変化を検証	指定管理者
C	毎年	利用者を対象にアンケートを実施し、定量的なデータを測定し、検証	経年変化を検証	指定管理者
D	毎年	市民モニター等を対象にインタビュー調査を実施し、定性的に検証	経年変化を検証	組合（指定管理者協力） H27年度から実施
E	中期の区切りで	圏域市民を対象にアンケートを実施し、定量的なデータを測定し、検証	平成25年度のデータと比較し、変化を検証	組合（指定管理者協力）
F	中期の区切りで	事業評価委員会・市民モニターが取組内容や成果を定性的に検証	平成22年度、25年度の状況と比較し、変化を検証	組合（指定管理者協力）

5. 段階評価の基準

評価	評価内容・基準
A++	優良：目標を超える成果を挙げている。内容が特に優れている。
A+	良好：目標に対し良好な成果を挙げている。内容に優れた点が見られる。
A	適正：計画に則して目標を達成している。内容が適正である。
B	改善：目標が達成できていない点がある。もしくは内容の改善が必要である。
C	見直し：目標がほとんど達成できていない。抜本的な改善が必要である。

1. 事業目標ならびに事業方針

第2次基本計画			指定管理者・事業計画
事業領域	事業目標-1	取組方針	H26年度～H28年度（中期）事業の基本方針
事業計画 科学館事業 (中核事業)	<p>科学を楽しむ 世界と向き合う</p> <p>多摩六都科学館は、これまでの科学館事業を継承しつつ、さらに活動や場を拡げ、ひとりでも多くの皆さんが科学の楽しさをともに体験でき、科学リテラシーを高められる科学館をめざします。</p>	<p>多摩六都科学館の中核事業です。「科学を楽しみながら学べる科学館」「子どもたちの科学する心を育む科学館」像はこれまで通り大切にしつつ、幅広い年齢層も利用できる施設へと徐々に領域を拡げます。多くの方が科学の楽しさに触れ、新たな価値を発見できる科学館像の実現をめざします。</p>	<p>科学の楽しさを実感できる学びの場づくり</p> <p>中核事業の活動のテーマでもある「DO！サイエンス」とは、「実感を伴った理解を図る学習活動」の提供であり、観察・実験・工作といった体験的な活動を重視することです。</p> <p>多摩六都科学館の新10年計画（第2次基本計画）の使命として掲げられた『多様な「学びの場」の創出』と、科学館事業目標である圏域市民の「科学リテラシーを高める」を達成させるためには、科学館活動のすべてを「実感の場と機会を提供すること」に収斂することによって実現できると考えられます。この実感を提供できるよう、標本・装置の充実、専門性とエンジョイメントの両立、参加体験でのコミュニケーションのさらなる充実をめざします。</p>

2. 中期の重点戦略ならびに業績指標

3. 評価結果・指標の実績結果

重点戦略	中期で重点的に取り組む戦略	事業概要	業績指標	定量	検証方法	中期目標（目標値）	H24	H25	H26	H27	H28	中期3カ年	H25調査
							実測値	実測値	実測値	実測値	実測値	実測値	参考値
<p>専門性を基本とした上で、科学を通して得られる楽しみや感動、インスピレーションを重視した事業を行います。</p>	<p>すべての面において、コミュニケーションを重視した事業運営を行います。また、企画展の成果を生かし、常設展示の更新・充実を図り、ひとりでも多くの方が科学を楽しめる場づくりに努めます。</p>	<p>II-1.科学館事業全体</p>	<p>●「コミュニケーション重視の体験が充実」と答えた人の割合</p>	*	C	今後、測定予定							
			<p>●「科学の楽しさを実感した」と答えた人の割合</p>	*	C	〃							
<p>子どもを中核としつつ、より幅広い年齢層（幼児、若者層、高齢者層）が共に楽しめるコンテンツの開発を推進します。</p>	<p>併せて、中学生以上を対象にした大人向けプログラムの開発・実践に努めます。</p>	<p>● 幅広い年齢層からの支持</p> <p>● 常設展示 満足度（館内アンケート）</p> <p>● 企画展示 満足度（①館内アンケート、②会場アンケート）</p> <p>● ①プラネタリウム・②大型映像 満足度（館内アンケート）</p> <p>● 参加体験型学習プログラム 満足度（各プログラムで実施しているアンケート）</p> <p>● リピーターの比率の維持</p> <p>● ファミリー層の新規利用者の増員をめざした取組</p>	<p>● 科学への興味喚起度（利用者調査・定量的）</p>	*	C	〃							
			<p>● 科学への興味喚起度（市民モニターが検証・定性的）</p>	*	D						A+	A+	
<p>展示や教育普及活動がさらに充実するよう、科学館事業の基盤となる収集・保存・調査研究活動の強化を図ります。</p>	<p>多摩地域の地層・化石の研究は継続させます。また、これまで蓄積してきた収集・展示資料の図録を編集・発行します。</p>	<p>II-1-1</p>	<p>● 調査研究活動</p>		B	検討/実施			実施	実施	実施		
			<p>● 標本資料装置の充実（研究成果の市民への還元）</p>		B	検討/実施			実施	実施	実施	実施	
<p>館内だけでなく、地域全体にも活動フィールドを拡げ、多くの方が科学の楽しさを体験できるよう、アウトリーチ活動を推進します。</p>	<p>3カ年で徐々に実施していきますが、毎年、圏域五市の小学校各校1校ずつ、圏域五市の中学校には1校は必ずアウトリーチ活動を行います。</p>	<p>II-1-5-4 II-2全体</p>	<p>● 圏域五市小学校へのアウトリーチ活動</p>	*	A	各市1校ずつ5校実施			10校	11校	12校		
			<p>● 圏域五市中学校へのアウトリーチ活動</p> <p>● その他の機関などへのアウトリーチ活動</p> <p>● ボランティアによるアウトリーチ活動</p>	*	A	5市で1校は実施			3校	2校	1校		
<p>圏域内にサテライト（科学教育の場）が広がっていくことも将来展望とします。</p>	<p>市民の自発的な活動に注目しつつ、実現可能策を検討します。</p>	<p><組合></p>	<p>● 業務基準書改訂に向けた検証</p>		B	検討/実施							
			<p>● 圏域内のサテライトのあり方や可能性に関する検討</p>		B	検討/実施							
<p>多様なテーマを科学的なアプローチで探求し、科学に興味のない方でも来てみたいと思わせる事業展開を図ります。敷居を低くし、科学への興味を引き出す場をつくりだします。</p>	<p>周年イベントなどで集客し、多摩六都科学館のファンを増やします。</p>	<p><組合></p>	<p>● ファンを獲得できる周年イベントの実施</p>		B	検討/実施			実施	実施	実施		
			<p>● 圏域5市への働きかけや協働体制強化に努めます。</p>		B	検討/実施							
<p>ひとりで展示を見るだけではなく、その場に参画した人たちが、ともにつくりあげていくプログラムへと転換を図ります。</p>	<p>学習プログラムや展示室でのアクティビティをワークショップ型（参加体験型）とし、見るだけで終わらない科学館体験を提供します。</p>	<p>II-1全体</p>	<p>● 参加体験型の学習活動の拡充</p>		B	検討/実施			実施	実施	実施		
			<p>● 「誰もが科学を楽しめる科学館」としての評価（定量的）</p>	*	E								5.49
<p>中期的な指標（主は組合・指定管理者協力）</p>	<p>圏域市民の科学リテラシーの向上（科学への興味喚起度）（定量的）</p>	<p><組合></p>	<p>● 指標：指標：生活の中で役立つ科学の知識が身につく、世界の課題を科学的な観点から考えることができる科学館</p>	*	E							4.99	
			<p>● 圏域市民の科学リテラシーの向上（科学への興味喚起度）</p>		F								A
<p>科学の担い手の育成（定性）</p>	<p>「科学館での体験を通して、考え方や生き方に変化が生まれたか」</p>	<p><組合></p>	<p>● 科学の担い手の育成（定性）</p>		F							A+	
			<p>● 「科学館での体験を通して、考え方や生き方に変化が生まれたか」</p>		F								A+
<p>そのような事業を行っているか（定性）</p>	<p>そのような事業を行っているか（定性）</p>	<p><組合></p>	<p>● 「誰もが科学を楽しめる科学館」としての評価（定性）</p>		F								
			<p>● 「科学館での体験を通して、考え方や生き方に変化が生まれたか」</p>		F								

4. 評価結果（定性評価）

	自己評価			外部評価	
	今年度の取組結果・成果	課題・今後の取組方針	目標の達成状況	評定	総評（総括的な意見等）
H26	<p>実質的コミュニケーション実現のため、下記事業を行った。</p> <p>寄贈標本整理による常設展示の充実、利用者層別・ラボ別プログラムの品揃えの充実、常設化を意図した内製企画展の実施、単なる生解説の領域を超える観客と会話するプラネタリウム番組の提供（2か月毎に更新）等。</p> <p>これらの事業によって「DO！サイエンス」を実現する事業展開のための基盤の整備を推進できた。</p>	<p>各常設展示室のコア部分の改良を優先順位を決めて取り組み、各部屋ごとの科学体系を充実させる。</p> <p>寄贈標本の体系化を果たし、常設展示をさらに充実させる。</p> <p>平成26年度に作成したベータ版の展示ストーリーブックを充実させ、関係者の展示内容把握を高め、展示ツアー等によるコミュニケーションの深度を高める。</p> <p>その他、誰もが利用しやすい科学館をめざし、障害者配慮型のプログラム開発についても、さらに充実を図る予定である。（事業目標2より移動）</p>	A	A+	<p>プラネタリウム・参加体験型学習プログラムの満足度は、9割以上と非常に高い上に、科学館事業全体を鑑みると大変よくやっていると思う。また、リピーターの比率が高い割合を維持していることから事業の充実度を窺い知れる。</p> <p>常設展示の満足度は目標値の80%に達していないが、26年度から継続的に常設展示のコンテンツの充実を図っており、その取組姿勢は評価したい。自己評価はAと控えめであるが、当委員会ではA+の評価とする。</p>
H27	<p>既存の寄贈標本は、新規標本の登録整理の完了に合わせ、常設展示に組み入れて再構成し充実を図っている。</p> <p>地球の部屋では今年度寄贈を受けた3点（鉱物2点、化石1点）に解説パネルを付け常設展示とし、鉱物、岩石標本の解説と展示位置を改良した。</p> <p>今年度相互協力協定を締結した国立極地研究所の協力で、南極昭和基地のリアルタイム映像を常時放映する等、地球の部屋の展示が充実してきている。</p> <p>再生中の館庭雑木林では、実生のクヌギ・コナラの保護や観察を行い、他にも、東京大学生態調和農学機構での「食と農の体験塾 大豆編」・「タキギ編」・「稲観察編」、柳瀬川投網による魚の生息調査、西原自然公園の樹木更新作業等、地域の活動への積極的な参加とレポートを行った。</p> <p>昨年度の課題であった「誰もが利用しやすい科学館をめざし、障がい者配慮型のプログラム開発」で、平成27年度から「おもいやりプラネタリウム」として、月1回障がい者や小さな子供連れが安心して観覧できるきプログラムを開始し好評を得ている。</p>	<p>中核事業と地域拠点事業を具体的に『地域づくり』につなげるべく各展示室のコンセプトを押さえつつ、引き続き各常設展示室の改良と充実に取り組む。企画展の標本・装置・模型は常設展示化に耐えるクオリティで作成し常設化することや、寄贈標本の登録整理・体系化を進め、展示室の活性化を図る。</p> <p>調査研究活動についても中核事業・地域拠点事業の関係を意識し、地域の各種団体と協力しつつ、再生中の館庭雑木林や地域の自然に関する調査を継続し、その成果を展示し市民に発信する。</p> <p>「シニアキャンペーン」は始めてから4年で大きな成果を上げ始めており、「おもいやりプラネタリウム」も定着をめざし継続することが重要と考える。</p>	A	A+	<p>市民から寄贈された標本を整理・登録し常設展示に活用することは、当館の事業として重要なことであり高く評価できる。</p> <p>常設展示及び企画展示の満足度が過去最高を示したことは、展示の充実を物語っていて、市民モニターの評価も高い。</p> <p>また、関係機関との連携を深め、その情報を発信し、さらに前年度の課題であった多様な利用者に配慮したプログラムを開始し好評を得ていることも高い評価につながるものである。</p>
H28	<p>杉並区立科学館の閉鎖に伴い、約220点の標本寄贈を受け入れた。さらに今年度は地学系標本として隕石や化石を購入して展示し、さらなる常設展示の充実を図っている。また、来年度に博物館相当施設となるべく、既存標本の整理を進めると共に収蔵庫整備を進めている。</p> <p>企画展では、夏の企画展は3年ぶりに「昆虫展」を開催し、昆虫人気を反映し、この期間だけで利用者が昨年度比約1万人増となり、今年度25万人超えとなった大きな要因と言える。さらに、秋には主にシニアをターゲットとして、奈良文化財研究所の協力のもと、文化的イベント「キトラ古墳」を題材とした企画展を開催した。</p> <p>昨年度の今後の取組方針で記載した「おもいやりプラネタリウム」を今年度も継続しているが、これを目指して来館する方が増えてきている。</p>	<p>平成29年度には博物館相当施設となる予定であり、今後さらなる収蔵品の充実と整理、またそれら展示や解説力の強化を進める。</p> <p>50歳以上の世代に関しては、大人向けコンテンツを充実させることで利用促進を図り、結果にも現れているが、中高生や20歳代の青少年層の利用が極端に少ないことが課題となっている。中高生をターゲットにしたイベントを開催しても、中高生よりも大人の参加者が多い状況であり、情報の発信方法や開催日時の検討など、別の切り口から取り組むこととする。</p>	A	A+	<p>各指標とも概ね平成27年度の数値よりも高まっており、博物館相当施設をめざしていることも評価できる。</p> <p>夏の企画展では、質の高い標本を活用した興味深い昆虫展を実施し、多数の来館者を集めることができた。また、シニア向けの企画や「おもいやりプラネタリウム」など良い企画が継続的に実施されていることは大変意義深い。科学館の定性目標と定量目標である集客の両方を成し得ている事業展開を大いに評価したい。</p> <p>今後は、依然として増えない中高生・若者の利用促進は課題ではあるが、数ではなく興味関心の高い層をねらう必要があると思う。また、増加しているリピーターに対する学習効果の分析にも取り組んでほしい。</p>

4. 評価結果（定性評価）

	自己評価			外部評価	
	今年度の取組結果・成果	課題・今後の取組方針	目標の達成状況	評定	総評（総括的な意見等）
中期 3カ年	<p>年度毎の取組結果・成果には記していないが、各展示室で開催しているラボや、各種教室等で実施している観察・実験・工作等も非常に多くの種類のワークショップや教室があり、参加者も増え、平成28年度は8万人近い利用者がなんらかの体験をしている。科学館に来れば何かおもしろい科学的な体験ができる場所としての認知が定着しており、ファミリー層の需要にはほぼ応えていると考えている。</p> <p>企画展造物物の常設化や、つながるスポットの随時更新による常設展示物の充実を図った。また、ワークショップや教室の種類数の増加だけでなく、内容の向上にも継続的に取り組んでいる。</p>	<p>利用者数の増加が続いているが、日曜日や祝日はこれ以上の来館者を受け入れるのが物理的に厳しい状況となっている。休日のファミリー層を維持しつつ、土曜日や平日の大人の利用者促進の施策を今まで以上に進める。</p> <p>また、ワークショップや教室の開催回数も、スタッフの人員数的にこれ以上増やすことは厳しい状況であることから、より科学を楽しみ、満足度や学習効果を高められるような内容に進化させていく。</p>	A	A+	<p>7年間余り継続的に事業を見てきた者としては、以前よりプログラムの幅が広がり、さらに深みが出てきたという感じがする。展示室でのラボや多くのワークショップが実施され、科学館全体に活気があり、来館者の学びが深まっていると感じる。来館者数の増加だけでなく、ワークショップなどへの参加者が増えていることも高く評価したい。</p> <p>日曜日と祝日の来館者が科学館のキャパシティを超えると、来館者の効果的な学習と満足度を維持できない可能性がある点が課題と言えるが、常設展示のラボや各種教室が実施しているプログラムが充実しており、市民モニターからも高い評価を得ていることからA+とする。</p> <p>難しいと思うが、今後、さらに体験プログラムの内容・開催時期や場所・実施の時間帯などを工夫して開催数の増加にも努めてもらいたい。</p>

1. 事業目標ならびに事業方針

第2次基本計画			指定管理者・事業計画
事業領域	事業目標-2	取組方針	H26年度～H28年度（中期）事業の基本方針
事業計画 地域拠点事業	<p>多摩六都の交流拠点</p> <p>多摩六都科学館は、地域の人々が世代を超えて交流し、自己実現の場として活用できるよう、地域の交流拠点（たまり場・ハブ）となります。</p>	<p>開館当初から期待されていた役割でありながら、「子どもの施設」のイメージが強く、生涯学習施設としての機能や魅力は周知されていません。そこで、施設の機能構成から見直し、圏域市民が気軽に利用できる施設へと転換を図ります。</p>	<p>幅広い年齢層が科学を仲立ちとして交流・連携する場の創出</p> <p>多摩六都科学館は、生涯学習施設としての機能強化が求められています。これまで同様、ボランティア活動やキャリア教育の支援など、圏域市民が様々な立場で交流できる場づくりに努めます。また、今後は友の会会員とも「ともに作りあげる」関係づくりを進めます。子どもだけでなく、幅広い年齢層が気軽に利用できる機会や学びの場を市民とともに作りあげていきます。</p>

2. 中期の重点戦略ならびに業績指標

3. 評価結果・指標の実績結果

↓凡例：色の濃度は重要度（濃い方が重要度が高い）

赤字：重点的な業績指標と重複する指標

↓別表参照

重点戦略	中期で重点的に取り組む戦略	事業概要	業績指標	定量	検証方法	中期目標（目標値）	H24	H25	H26	H27	H28	中期3カ年	H25調査		
							実測値	実測値	実測値	実測値	実測値	実測値	参考値		
● 地域の人々が立場を変えつつも人生を通して、科学館ボランティアや友の会等の自主的な活動によって成長し、社会貢献し、自己実現できるよう支援活動を行います。	● さらに充実したボランティア活動を行い、多摩六都科学館をともに作りあげていきます。	II-2-1- (1)	● ボランティアの科学館事業への支援延人数	*	A	3,000人以上 10人以上/1日 (開館日数300日)			3,950人	4,425人	5,277人				
			● ボランティア主催事業回数	*	A	12回以上 (1回/月) 以上	10回	12回	14回	25回	33回				
			● ボランティアによるプログラム開発		B	検討/実施			実施	実施	実施				
● 市民や利用者の総合的な学習活動を支援するため、市民の視点に立ち、利用者が主役となって活用できる場をともに作りあげます。	● 友の会会員に市民モニターとして事業に参画いただける機会を作ります。また、賛助組織としての機能拡張も検討します。	II-3-1- (2)	● 友の会会員数	*	A	1,500人以上	1,056人	1,501人	1,643人	1,810人	1,741人				
			● 友の会市民モニター取組		B	検討/実施			検討	検討	検討				
● 市民や利用者の総合的な学習活動を支援するため、市民の視点に立ち、利用者が主役となって活用できる場をともに作りあげます。	● 利用者・市民・スタッフ・専門家・企業・地域関係者のために、科学を仲立ちとした交流の場と機会を提供していきます。	主に II-2-1- (2)	● 市民活動支援事業		B	検討/実施			実施	実施	実施				
			■ 生涯学習施設としての評価 指標：各世代にわたって生涯学習の推進に貢献できる科学館	*	E								4.57	3.94	
			■ 地域の交流拠点としての評価 指標：地域の人々が世代を超えて交流できる科学館	*	E									4.46	3.85*
			■ 「多くの圏域市民が参加し盛り上げていける科学館」としての評価（定量）	*	E									4.17	
			■ 「多くの圏域市民が参加し盛り上げていける科学館」としての評価（定性）		F							A			

指標の平均値：4.94

*類似指標：地域コミュニティの核となる科学館

4. 評価結果（定性評価）

	自己評価			外部評価	
	今年度の取組結果・成果	課題・今後の取組方針	目標の達成状況	評価	総評（総括的な意見等）
H26	<p>多摩六都のボランティア活動は、100人を超える規模、参加しやすい曜日班システム、参加頻度の高さが証明するように科学館が地域と密接につながっているという点で大きく評価できる。ボランティア規約も地域の方が自律的に作成するなど地域の活動拠点になっており、ボランティア＝地域の方が主人公という先端事例になりうる。</p> <p>ボランティアの活動場所も、常設展示の体の部屋、しくみ・自然・地球の各ラボ、科学学習室、さらにアウトリーチまで活動の幅を広げている。ジュニアボランティア制度も軌道に乗り、圏域市民のボランティアスピリットを高める面でも成果を上げつつある。</p>	<p>今後は、ボランティアによる自主的なプログラム開発や自立型プログラム運営の実現に向け、「自分の科学館」として活動できる場となるよう、サポートを行う方針である。</p> <p>また、友の会は、今後、年間パスポートサービスだけでなく、科学館の成果（科学リテラシーや地域リテラシーの向上）を検証する際の市民モニターの核として参画できるよう、取り組みを試みていく計画である。</p>	A+	A+	<p>ボランティア参加人数の規模、ボランティアによる自律的な運営体制、圏域へのアウトリーチ活動や自主事業の開催、ジュニアボランティアの育成など、大変めざましい成果が見られ、大いに評価したい。また、ボランティアの9割以上が構成五市の住民であることから、多摩六都科学館が地域拠点として機能していると言える。今後は、ジュニアボランティアや友の会会員の成長について追跡調査を実施し、長期的な成果を提示していく努力も必要と思われる。</p>
H27	<p>ボランティア活動は執行部の刷新と会則一部改訂も実施、極めて活性化している。ボランティア主催事業回数がほぼ2倍に増えており、増加分はボランティア自身による新たなプログラムとなっておりより自立化に進んでいる。ボランティアによるアウトリーチ活動も平成27年度は10回実施されており、活動の場が科学館の外にも広がりを見せている。</p> <p>ジュニアボランティア活動には子供達に対する教育の側面があり、平成27年度は「つくる部」を立ち上げ、モノづくり活動とその活動成果を来館者に対し自ら説明する発表会を実施した。体験活動と言語活動のセットの意味は大きい。</p>	<p>より自立したボランティア活動をめざし、一人一人が得意分野を生かせるよう実質的にサポートし、館内ではからだの部屋以外での活動、館外では地域づくりに関連した活動を意識していただく。</p> <p>ジュニアボランティアは教育の一環としても成果を上げており、またそこから得るノウハウは大きい。希望者数増に応えるため、ジュニアボランティアの組織形態を検討し未来の地域づくり人を育成すべく前向きに新組織化に向け計画検討する。</p> <p>友の会はこれまでの単なる①年間パスと、新たに②科学館サポーターを設け、新たな友の会とスタートするよう進めており、平成28年度に条例を改定し平成29年度からの実施を目指す。</p>	A+	A++	<p>ボランティアに活動の場を提供し協働することは、当館の重要な役割であり、地域交流の拠点としても大きな意義がある。自立したボランティアが新たなプログラムを館内で実施することは、科学館の魅力を高めることにつながり、アウトリーチ活動により地域への広がりだけでなく館のPRにも貢献している。</p> <p>また次世代の育成に寄与するジュニアボランティアの新たな活動は、地域の子どものサイエンスリテラシーの醸成にもつながり、長期的な視点からも高く評価できるものである。</p> <p>ボランティア活動と友の会の活動が活発に行われていることは、ボランティア主催事業回数及びボランティアの科学館事業支援延べ人数の大幅増加にも見て取れる。</p>
H28	<p>ボランティア活動はさらに活性化しており、ボランティア主催事業の回数は昨年比で約30%増の33回の実施となり、アウトリーチ活動も2回増え12回の実施となっている。</p> <p>ボランティア活動費用は指定管理者が費用処理と管理を行っていたが、今年度からは一括で活動支援費をボランティア会経費として計上し、会が執行・管理をするようにし、ボランティア会活動のさらなる自立が進んだ。昨年の課題として記載したジュニアボランティアの組織形態の改善に関しては、活動3年目に入り、館内での活動内容を自ら計画することとし（1、2年目は活動内容を指定管理者が指示している）、ジュニアボランティアに対しても自立化を促している。</p> <p>同じく昨年の今後の取組方針で記した、友の会制度の年間パスポートとメンバーシップ制度への改編は、条例の改正を受けて平成29年度から開始する。</p>	<p>ボランティア会の自立化をさらに進めるが、指定管理者として支援すべきこととボランティア会として独自で行うこととお互いに認識し合い、現状の良好な関係を今後も継続していく。</p> <p>友の会の年間パスポートとメンバーシップ制度への改編が平成29年度から開始されることに伴い、それらが利用者にどのように受け入れられるかを随時検証し、修正を図る予定である。</p>	A+	A+	<p>ジュニアボランティアが活発化し自立化が進み、指定管理者とボランティアとの関係も円滑で、世代を超えたコミュニケーションの地域拠点としても機能していると感じる。また、ボランティアや友の会の活動によって、圏域市民が多摩六都科学館を「市民の科学館」として意識できる要因となっている。今後も、これらの活動が重要であり、それを育成してきた努力は大きく評価できる。</p> <p>確かにボランティア活動の充実には目を見張るものがあるが、半面各人がやりたいように実施している面もあり、科学館事業として一貫性に欠ける感もあるのが今後の課題と言える。</p> <p>地域との交流は非常によい成果をあげているが、科学館がハブとなって地域の団体をつなぐ活動など、まだ発展の余地も多々あるように感じる。年間パスポート等の制度改正が行われることから、さらに今後に期待したい。</p>

4. 評価結果（定性評価）

	自己評価			外部評価	
	今年度の取組結果・成果	課題・今後の取組方針	目標の達成状況	評価	総評（総括的な意見等）
中期 3カ年	<p>博物館のボランティア活動としては、他館に誇れる体制や内容となっている。指定管理者との関係も極めて良好で、科学館の運営を支えるパートナーとしての存在感が大きくなっている。</p> <p>年度毎の取組結果・成果には記していないが、地域の市民団体、企業、大学、研究機関、学校との繋がりは、この3年間（指定管理期間の5年間を通じて）で飛躍的な広がりをみせている。</p>	<p>ボランティア会で開催している事業（教室）も回数が飛躍的に多くなっており、それに合わせて参加者も増えているため、現在ボランティアが使用していない他のラボを使う等、科学館をより広範囲に使った活動も進めたい。</p> <p>地域の団体等との繋がりは、現時点では科学館と各団体間の一对一の線での繋がりがほとんどだが、今後は連携先同志の繋がりを進め、面として地域への広がりを目指す。</p>	A+	A+	<p>企業・研究機関との協働によって、展示コンテンツが充実してきている。また、ボランティア活動が活性化し、展示室での来館者とのコミュニケーションも進み、地域の交流拠点となってきている。</p> <p>ボランティア活動が充実した点、地域の機関や団体との連携を挙げた点は高く評価できる。平成29年度から実施されるメンバーシップ制度に期待したい。</p>

1. 事業目標ならびに事業方針

第2次基本計画			指定管理者・事業計画
事業領域	事業目標-3	取組方針	H26年度～H28年度（中期）事業の基本方針
事業計画 地域拠点事業	<p>多摩六都の魅力発信</p> <p>多摩六都科学館は、活動や場を介して、地域の様々な資源をつなぎ、新たな資源を市民の皆さんとともに作り上げ、社会に還元していく創造拠点となります。</p>	<p>新たに定めた使命を実現するために、新規に設けた事業分野です。地域連携や地域資源の掘り起こしは徐々に始めていますが、今後は多摩六都科学館の目玉となる事業となります。</p> <p>圏域市民の皆さんの協力を得ながら体制を整備し、実現をめざします。</p>	<p>地域資源や市民をつなぐ場／コミュニケーション・プラットフォームへと進化</p> <p>展示や調査研究活動などを行う際、地域資源の価値発掘と魅力発信も視野に入れて活動を行い、圏域市民の「地域リテラシー」の醸成を図ります。また、「地域参画力」のある人材育成も行いながら、多摩六都圏域を支える諸団体・市民との連携に力を入れ、自律的な市民の地域づくりを支援します。</p> <p>将来、科学教育のためのコンテンツやプログラムをオープン・データ化できるよう、開発を進めます。</p>

2. 中期の重点戦略ならびに業績指標

3. 評価結果・指標の実績結果

↓凡例：色の濃度は重要度（濃い方が重要度が高い）
赤字：重点的な業績指標と重複する指標
↓別表参照

重点戦略	中期で重点的に取り組む戦略	事業概要	業績指標	定量	検証方法	中期目標（目標値）	H24	H25	H26	H27	H28	中期3カ年	H25調査
							実測値	実測値	実測値	実測値	実測値	実測値	参考値
<ul style="list-style-type: none"> 地域の自然・文化・歴史・産業など様々な資源を、地域の皆さんと協力しながら、科学的な観点から価値づけ、その価値を広く発信し、さらに新たな地域資源をつくり上げていきます。 こうした活動を通して、地域の人々の「地域参画力」を高めていきます。 科学教育のためのコンテンツやプロダクト、研修プログラムなどを、協力者とともに開発し普及させていくセンター的な役割を展開します。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、協働体制で地域資源をテーマにした様々な企画展や教育普及活動を開催し、地域内外に発信し続けます。 「地域づくり人」講座など、圏域市民の「地域参画力」を高めていける研修の場を設けます。 今後もプログラムの開発を継続的にを行い、将来的にはオープンデータとして公開をめざします。 	主に II-2-2 1科学館事業 全体 2地域拠点事業 全体	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源をテーマとした企画展の開催 		B	検討／実施			実施	実施	実施		
			<ul style="list-style-type: none"> 常設展示つながりスポットの充実 		B	検討／実施			実施	実施	実施		
			<ul style="list-style-type: none"> 地域資源をテーマとした学習プログラムの開発 		B	検討／実施			実施	実施	実施		
			<ul style="list-style-type: none"> 地域資源をテーマとしたイベントの実施 		B	検討／実施			実施	実施	実施		
			<ul style="list-style-type: none"> 「多摩地域の価値を見つけた」と答えた人の割合(定量) 多摩地域の価値を見出せる事業の実施(定性) 	*	C	今後、測定予定					A	A	
			<ul style="list-style-type: none"> 圏域市民を対象とした研修会の実施 		B	検討／実施			実施	実施	実施		
			<ul style="list-style-type: none"> プログラム公開に向けた取組 		B	検討／実施			検討	検討	検討		
			<ul style="list-style-type: none"> 科学教育のためのコンテンツやプロダクト、研修プログラムなどの開発 		B	検討／実施			検討	検討	検討		
			<ul style="list-style-type: none"> 「地域の振興に寄与できる科学館」としての評価(定量) 「地域の振興に寄与できる科学館」としての評価(定性) 	*	E							4.9	3.87**
			<ul style="list-style-type: none"> 「地域資源を生かした運営」に対する評価 		F							A	
			<ul style="list-style-type: none"> 指標：地域の資源（自然・文化・ひと等）を生かした運営を実践する科学館 	*	E							4.94	

指標の平均値：4.94

**類似指標：地域の文化振興に寄与できる科学館

4. 評価結果（定性評価）

	自己評価			外部評価	
	今年度の取組結果・成果	課題・今後の取組方針	目標の達成状況	評定	総評（総括的な意見等）
H26	<p>大学側・研究所側の社会貢献というニーズを反映し、連携・協働事業は市民も加わる形で活発に実施できた（東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構、高エネルギー加速器研究機構、東京大学宇宙線研究所、国立天文台、東大農場・演習林等との事業）。</p> <p>「多摩・島しょ子ども体験塾」を通して、企業連携を深めることができた。シチズン(株)、グロープライド(株)はプログラム提供レベルに達している。</p> <p>市民連携では、自然保護の市民団体と活動目標・地域自然の価値を共有でき、活動を科学館中核事業として位置づけることができた。エコミュージアムのサテライト活動と科学館を中核とした活動の地域連携が始まった。</p>	<p>今後は、機械振興協会・技術研究所（東久留米市）と協力し、地域の福祉系との協働をサポートしていきたい。また、多摩地域の情報通信研究機構、国立極地研究所と連携を進め、新たなプログラムや企画展の開発を推進していく意向である。</p> <p>市民連携では、自然保護の市民団体の高齢化が進み、次世代の活動メンバーの組織化をサポートすることが重要課題となっている。自然系の連携先は進んでいるが、デジタル系の市民連携が展示や運営面での課題である。</p> <p>下野谷遺跡等、科学館と無縁に見える地域資源も、地球の部屋の武蔵野台地の視点と関連付け、地域の文化として展示化を検討する。</p>	A	A+	<p>初年度でありながら、精力的に地域連携事業を実施しており、その取組姿勢は大いに評価できる。今後、地域産業や産物を科学的観点から価値づけ、発信していく媒体として科学館が機能し、地域にとってかけがえのない存在に成長することを期待している。</p> <p>また、スタッフひとりひとりが「公の施設」の運営に携わる者として自覚を持ち、成長してほしい。</p>
H27	<p>西東京市の下野谷遺跡が国史跡に指定されたことを受け、圏域5市にある遺跡を集めた遺跡展を開催した。科学館での開催を特徴付けるため、単に発掘品を展示するだけでなく、現在の圏域地図上に発見されている遺跡群を重ねることにより、遺跡と地形の関係性が理解できる展示とした。また、柳瀬川や金山緑地等での自然観察会を実施し、市民との連携でそれぞれの自然を保護している団体と協力して事業を行った。</p> <p>研究機関等との連携では、平成27年度は新たに東京大学宇宙線研究所、及び国立極地研究所との間で相互協力協定を締結し、市民が最先端科学技術に触れる機会を提供する幅が広がっている。</p> <p>圏域内の最大の交通機関である西武鉄道と協力し鉄道展を開催した。圏域を模した鉄道ジオラマを置き、そのジオラマ上に来館者が作ったペーパークラフトの家や車を置いていくことにより、鉄道に沿って町が発展していく様子を表す市民参加型の展示も設置した。</p>	<p>行政・公共施設・企業・市民団体・学校・研究機関等数多くの団体との連携による事業を展開しているが、まだ各団体と科学館との2者での活動が多い状況にあり、今後複数の団体が協力・協調した事業が展開できるように長期的な取組みが必要と考える。</p> <p>また、現在先端科学技術の面では宇宙や物理への偏りが強く、地域の自然科学の面では、地質・動植物への偏りが強い状況にあるので、他の分野への広がりを検討する。</p>	A+	A+	<p>地域の国史跡指定を受けたタイムリーな企画展示、緑地や河川での自然観察会の実施は、市民に「地域の宝」としての価値をアピールし、地元への愛着心を高めることにも貢献している。</p> <p>来館者とともに作り上げる鉄道ジオラマは市民参加型展示としての評価だけでなく、圏域最大の交通機関である西武鉄道の協力を得ての展示が「街づくり」の体感をもち、自分の住む街を身近に感じることにもつながるなど、当館の特徴を活かしたものと評価でき、市民モニターの評価も高い。</p>
H28	<p>西東京市にある東京大学生態調和農学機構とは、3年間にわたって実施している「農と食の体験塾」や、小学校の総合学習のフィールドとしての利用協力等、数多くの連携事業を開催しており、今後更なる連携を深めるため、平成29年6月に相互協力協定を締結することとなった。また、圏域にある自然をフィールドとした自然観察会も毎回定員を超える応募があり、圏域にある自然に対し興味を持つ市民が増えてきている</p> <p>多摩北部広域子ども体験塾では、西武鉄道の協力により貸切車両に乗って自分たちが生活する町の魅力を見出し、その魅力を伝えるラジオCMを作成し放送する「たまるくトレイン探検隊」を実施した。</p>	<p>東京大学生態調和農学機構との連携が新たな段階に入るに当たり、学問としての「農と食」に加えて、地域産業としての「農と食」に関する情報発信に取り組む。これを皮切りに、各種分野での地域をベースとしたイベント開催をさらに増やしていくことを検討する。</p>	A+	A+	<p>連携先を広げ、積極的な情報発信を行うことで多方面での認知度が向上している。</p> <p>地域との交流によって科学館の活動やコンテンツが拡充しつつある点、市民との活動成果をラジオ（コミュニティFM）を活用して情報発信した点、学問としての「農と食」に加え、地域産業としての「農と食」に関する情報発信に取り組んでいる点については高く評価したい。</p> <p>地域拠点事業は確実に進展しているが、今後は、「地域づくり」の観点から、科学を通して地域住民同士がもっとつながるような活動が必要である。</p>

4. 評価結果（定性評価）

	自己評価			外部評価	
	今年度の取組結果・成果	課題・今後の取組方針	目標の達成状況	評定	総評（総括的な意見等）
中期 3カ年	<p>地域の団体との連携が飛躍的に広がったことや、各種の地域資源を利用したイベントを実施してきた中で、いろいろな分野での地域資源の価値や魅力が見えてきている。</p> <p>また、それらの地域資源の価値や魅力をどのように圏域の市民に知ってもらうかと共に、圏域外の方たちにも知っていただくことの検討を始めている。</p>	<p>地域づくりでは、地域資源や地域の魅力を科学館から一方的に圏域市民等へ情報発信するだけでなく、地域価値の発信と活用を市民自らがどのように実現するかがより重要である。科学館としては、地域ハブとしてのあるべき姿を追求し、地域づくりのデザインへの確に反映させていくことをめざす。</p>	A+	A+	<p>地域の団体との連携を大きく広げた活動は高く評価したい。また、企業・研究機関との地域交流により、地域の魅力を発掘・発見し、圏域にフィードバックしていると思う。今後は、圏外に対する情報発信にも力を入れてほしい。</p> <p>構成市の負担金を考慮すると、圏域市民の認知度はさらに高める必要性を感じる。次の中期では、地域産業の価値を高める創造拠点としての活動に期待したい。</p> <p>また、地域資源の活用により地域の魅力を発見することは「地域づくり」にとって重要なポイントと言えよう。さらに科学（科学館）を介することによって、地域の人々の横のつながりができることを期待している。</p>

1. 事業目標ならびに事業方針

第2次基本計画			指定管理者・事業計画
事業領域	事業目標-4	取組方針	H26年度～H28年度（中期）事業の基本方針
経営計画 マーケティング	<p>愛着の持てるロクトへ</p> <p>多摩六都科学館は、圏域市民の認知度・利用度を高め、利用者の満足度向上をめざします。さらに、市民から愛着を持って「自分の科学館／地域の科学館」と認められる存在となります。</p>	<p>圏域市民の認知度・利用度を伸ばすことが今後の課題です。</p> <p>広報活動、ニーズ調査をパラレルに行いながら、認知度・利用度・満足度のアップをめざします。</p> <p>長期的には、圏域市民の科学館に対する価値観を高めることをめざします。</p>	<p>「利用者中心」に一元化されたコミュニケーションマネジメントによるマーケティングの展開</p> <p>コミュニケーションを重視した「DO！サイエンス」をさらに充実するため、最有力顧客であるファミリー層と、開発目標のシニア層をターゲットとした市場調査を行い、サービスの最適化を図ります。また、事業評価を的確にフィードバックし、サービス内容のさらなる向上につなげます。これらのサービスをターゲットマッチングを意識してタイムリーな広報・PR活動を行います。</p> <p>今後も、アテンドや広報だけでなく、すべての科学館活動を「利用者中心」に一元化したコミュニケーションマネジメントを行います。</p>

2. 中期の重点戦略ならびに業績指標

3. 評価結果・指標の実績結果

↓凡例：色の濃度は重要度（濃い方が重要度が高い）
赤字：重点的な業績指標と重複する指標
↓別表参照

重点戦略	中期で重点的に取り組む戦略	事業概要	業績指標	定量	検証方法	中期目標（目標値）	H24	H25	H26	H27	H28	中期3カ年	H25調査
							実測値	実測値	実測値	実測値	実測値	実測値	参考値
利用状況やニーズを分析し、認知度・利用度・満足度を高める取組を中長期の観点から推進します。 ● 利用者を第一に考え、常に質の高いサービスを提供します。市民や利用者の声を長期的に反映させやすいしくみを検討します。	● 今後も精度の高いアンケート調査を実施し、市民モニターを導入も図ります。 ★ 運営協議会の見直しを行います。	II-3-2	● 利用者の満足度（全体・総合的な満足度）	*	C	80%以上を維持			88.8%	89.8%	83.8%		
		<組合とともに>	● 利用者の声を反映した改善を可能とするしくみ検討に関する取組		B	検討／実施			実施	実施	実施		
多摩六都科学館が圏域市民のために運営されている施設であることの認知度をアップさせる方策を行います。広報については、エリア戦略とプロモーション戦略を検討し、効果分析しつつ、有効かつ効率的な方法で展開します。	● 多摩六都科学館の事業内容の価値や魅力の見える化を図り、迅速に更新も行い、情報を発信し続けます。 ★ 3カ年目に、圏域市民の科学館の認知度・利用度・満足度の調査を行い、平成25年度データと比較し、広報効果の検証を行います。	II-3全体	● 非利用者への利用促進策の実施・情報発信		B	検討／実施			実施	実施	実施		
		中期的な指標<組合>	● 圏域市民の科学館の認知度・利用度・満足度	*	E								
利用度を高めるためにアクセスの改善を図ります。 ● 圏域内のバスの運行やコミュニティサイクル等の導入を検討します。	● 夏休み期間など繁忙期には、5市の主要駅からシャトルバスを運行させ、利用者サービスに努めます。	II-3全体	● アクセス改善・交通の便改善に向けた取組		B	検討／実施			実施	実施	実施		
		中期的な指標	「自分の科学館／地域の科学館として価値ある存在」としての評価指標：ここ3年間の活動は、ご自分にとって、家族にとって、地域にとって価値あるものだったと思われませんか。 「市民から愛される科学館」としての評価指標：自分の科学館・地域の科学館として市民から愛される科学館	*	E							5.8★	
				*	E							5.48	

指標の平均値：4.94
★個別設問で測定

4. 評価結果（定性評価）

	自己評価			外部評価	
	今年度の取組結果・成果	課題・今後の取組方針	目標の達成状況	評定	総評（総合的な意見等）
H26	毎週マーケティング会議を開催し、方向性を検討し、下記のような成果を上げている。 タブレット利用の対面型出口アンケートや圏域5市の市民祭りでの対面型未利用者調査で確実な顧客ニーズを把握、体験プログラムでは書き込み型アンケートで反応を把握。調査結果もとに科学館ニュースの戦略的配布と編集、ホームページへの反映でターゲットマッチングなマーケティング活動ができた。 また、紙媒体・市報・マスコミ・有料広告・HPのトータル的PR活動により、20万を超える利用者の維持に貢献できた。	今後は、マーケティング担当以外のスタッフの顧客創造意識を高め、下記のようなサービスの充実を図りたい。 具体的な内容がわかりやすく伝わる広報資料の作成、文化資源の解説計画やシニア層への解説計画の充実、未利用者のさらなる開発、ホームページでの展示物検索、科学館ニュースの増ページ（予算を見ながら適切に実施）等。	A	A	マーケティング活動も週1回の会議を設け、推進し始めたことによって、戦略的な取組を実施し、功を奏していると言える。 今後は、マーケティング活動を通して得たデータを生かし、シニア層、中学生・高校生・大学生に向けた事業戦略を検討し、新規来館者層の獲得にも期待したい。
H27	館内アンケートは来館者に直接声掛けによる収集で来館者数の約1%（2,000件）の取得を継続し、またチケット発券時取得している来館者年代と合せ、来館者情報に関してはほぼ正確に把握できており、収集した情報を基に、広報計画を立て、実施し、来館者状況の変化を検証し、その結果を次の広報に生かすといった、広報活動のPDCAサイクルが出来ている。 運営連絡協議会は大幅に委員の入れ替えを行い、第2次基本計画で策定された「地域拠点事業」の取り組み強化が新たなテーマに据えられた。平成27年度、28年度の2年間を掛けて同計画の見直し及び加筆を掲げ、そのための下地になる議論を多摩六都科学館組合ならびに指定管理者、本協議会との三者間で行っている。 アクセス改善のため、3月の市民感謝デーにシャトルバスを運行した。 また、平成28年4月から「はなバス第4北ルート」が運行開始となるため、花小金井駅発のシャトルバス内にポスター掲示他の広報活動を実施した。 非利用者に対する利用促進として、シニア層に対しては4年前から秋にシニアキャンペーンを実施しており、この4年間でシニアキャンペーンでの来館者が5倍に増えている。また、大学生向けの学割キャンペーンや、中高生をターゲットに先端科学技術系講演会の時には、圏域内の全ての中学校、圏域及び近隣市区の全て高等学校、関東近辺のすべてSSH（スーパーサイエンスハイスクール）にチラシとポスターを送付している。	運営連絡協議会では、圏域の市民や企業、大学、研究機関などとの連携により、従来の枠組みにとらわれない施策を作りつつあり、今後も継続して開催していく。 また、平成29年度以降、現在臨時駐車場として使用している館南側の駐車場が使えなくなることになっている。 そのため、「はなバス」での来館促進の広報活動を展開する他、GWやお盆期間等の特に来館者の多い時期の対応を検討する。 シニア層の利用促進は効果が現われているが、中高生～20代に対しては種々の施策を施してはいるが、未だに効果が現われて来ない。シニア層とは違い世代が年毎に変わっていくため、継続して同じ施策を実施する事が必ずしも有効という訳ではなく、この世代を引き寄せる有効な施策を今後検討していく必要がある。	A	A+	運営連絡協議会が企業、大学、研究機関と連携を取り、従来の枠組みにとらわれない施策を作りつつあることは評価できる。 課題である公共交通機関によるアクセスの改善において、「はなバス」の新ルート運行開始、感謝デーのシャトルバス運行などの取組は評価できる。 また、中高大学生などの利用促進は来館者数の増加だけでなく、次世代の育成の面からもさらに進めることが望ましい事業であり、今後の施策に期待している。 シニアキャンペーンによりシニアの来館者数が増加していることも評価できる。
H28	昨年度に引き続き、来館者に対する直接の声掛けによるアンケートと、来館者の年代をチケット発券時にデータ化し、来館者情報の正確な把握を継続している。開催するイベントとタイムリーな広報による利用者の増加により、圏域市民の当館に対する認知度も上がっている。 運営連絡協議会で検討した地域拠点事業に関する提言を基に、圏域内外の数多くの各種団体との連携が作られ、その拠点としての役割を果たしつつある。	ファミリー層以外の開発として、カブリ数物連携宇宙研究機構（IPMU）との連携事業『アート・科学・哲学』のワークショップは、年代を超えた双方向のコミュニケーションを実現した極めて優れたプログラムであり、今後の指針となる。 シニアキャンペーンによるシニア利用者も増加を続けていたが、頭打ちとなってきており、今後は上述のように、主体的かつ能動的なプログラムへのキャンペーン計画が肝要と考えている。	A	A	既存の利用者層はしっかり捕らえており、マーケティングの観点でも連携が増えていることは評価できる。また、発券時の来館者属性の把握・分析を継続している点も高く評価できる。確実にアンケートやデータ取得、解析とその結果を活かす動きは進んでいるが、顧客満足度という観点からはまだ努力する余地があると言えよう。 健康をテーマとした大学・医療機関との連携は、シニア層等へのアプローチに有効であり、今後の誘致策としても注目したい。シニア層に対しては、まずは科学館の認知度を高めるなど、新たなマーケティングが必要である。 IPMUとの連携はユニークな活動であり、今後も続けることが望まれる。

4. 評価結果（定性評価）

	自己評価			外部評価	
	今年度の取組結果・成果	課題・今後の取組方針	目標の達成状況	評定	総評（総括的な意見等）
中期 3カ年	利用者情報の正確な把握、その情報を基にした施策の策定と実施、さらにその結果の検証と次なる施策へのフィードバックといったPDCAサイクルが機能している。実施してきた施策は概ね結果を出しており、利用者の増加や認知度の向上に貢献している。	平成28年度末に立ち上げたコミュニティカフェと直営化したミュージアムショップで、地域コミュニティと直結する広報やマーケティングを推進する。これらを含め、西武鉄道のような地域の中核的企業との連携を強化したマーケティングを試みる。	A	A	平成26年度～平成28年度の3カ年で、利用者数が20万人から25万人へ増加したことは大いに評価したい。また、意欲的な来館者調査と事業改善のPDCAサイクルが機能している点も高評価である。今後は、コミュニティ・カフェやミュージアム・ショップを介したマーケティングや、鉄道会社との連携によるマーケティングなど、新たな手法の開発に期待したい。 利用者情報の把握はこの3カ年で確実に進んでいるが、今後は、マーケット全体をどのように捕らえ、ターゲットを定めていくかが課題。特に中高生などまだ利用が少ない層に対する対応策検討が急務と言えよう。

1. 事業目標ならびに事業方針

第2次基本計画			指定管理者・事業計画
事業領域	事業目標-5	取組方針	H26年度～H28年度（中期）事業の基本方針
経営計画 財政計画・ 体制整備	持続可能なしくみづくりを 多摩六都科学館は、ソフト・ハード両面の改善が推進できる健全な財政計画や協働体制を立案実行し、地域貢献できる施設として持続可能な発展をめざします。	第1次基本計画時に策定した財政計画によって、プラネタリウムや常設展示のリニューアルが無事に実現できました。第2次基本計画でも、持続可能な成長・発展ができるよう、ハードだけでなくソフトの質的充実も図れるよう、財源の確保・体制整備を推進します。	顧客満足度を高め、地域づくりの基盤となる体制整備 企画展の成果物を常設展示に活用できるよう、的確な予算計画を練り上げ、実施します。また、多摩・島しょ広域連携活動助成金などの公的助成金により、新たなプログラムの開発に取り組みます。 顧客満足度の高いコミュニケーションサービスが達成できるよう、面談方式による人事評価を導入し、スタッフの育成を図り、体制整備を進めます。また、地域づくりのための体制やネットワークの構築も活動しつつ、進めていきます。

2. 中期の重点戦略ならびに業績指標

↓凡例：色の濃度は重要度（濃い方が重要度が高い）

赤字：重点的な業績指標と重複する指標

↓別表参照

重点戦略	中期で重点的に取り組む戦略	事業計画	業績指標	定量	検証方法	中期目標（目標値）	H24	H25	H26	H27	H28	中期3力年	H25調査
							実測値	実測値	実測値	実測値	実測値	実測値	参考値
● 負担金・利用料金以外の外部資金の導入・活用策（寄附金、助成金、補助金の確保の他、ネーミングライツ、賛助組織など）を検討します。	● 賛助組織について検討を行い、助成金獲得に努めます。	Ⅲ収支	● 助成金獲得に向けた取組		B	検討／実施			検討	検討	検討		
	★ ネーミングライツの検討、圏域5市が共同で実施する助成事業を継続して実施できるよう尽力します。		● 外部資金の導入策・活用策の検討・実施		B	検討／実施			検討	検討	実施		
● 地域連携・協働体制（ともにづくりあげていくしくみ）の整備も早急に検討を行います。	● まずは人的なネットワークの充実を図り、将来的な体制整備の検討を始めます。	Ⅰ-3-2等 事業全般	● 人的ネットワーク充実に向けた取組		B	検討／実施			実施	実施	実施		
			● 将来的な体制整備の検討		B	検討／実施			検討	検討	検討		
● 常に魅力的な施設であるために、展示やプラネタリウム等の定期的なリニューアルが実現できるよう財政計画を検討します。	● 企画展などの成果を常設展示に反映させていく等、恒常的な活動の中で魅力づくりを行える事業サイクルを構築します。	主に Ⅱ-1-2	● 効率的・効果的な事業サイクルへの取組		B	検討／実施			実施	実施	実施		
● 駐車場が不足しているなど施設に関する課題を解決するための取組みを行います。交通機関の協力や投資の必要もありますが、長期的な観点から改善策を検討します。	● 新駐車場の緑地と雑木林の環境に即した体験プログラムなどもボランティアとともに開発します。	Ⅱ-1-1 Ⅱ-2全体	● プログラム開発に向けた市民参画型の取組		B	検討／実施			実施	実施	実施		
			● プログラム開発の継続性・有効性		B	検討／実施			実施	実施	実施		
● 継続的なコンテンツ開発、優秀な人材の確保など、ソフト整備も長期的観点に立ち、財源確保を図ります。	● 宇宙航空研究開発機構などと連携し、コンテンツ開発と人材育成を図ります。	Ⅱ-1全体 Ⅱ-2全体	● 他機関との連携によるコンテンツ開発・人材育成の実施		B	検討／実施			実施	実施	実施		
			■ 持続可能な財政計画・体制整備の推進（定性的評価）		F	検討／実施						A+	

3. 評価結果・指標の実績結果

4. 評価結果（定性評価）

	自己評価			外部評価	
	今年度の取組結果・成果	課題・今後の取組方針	目標の達成状況	評定	総評（総括的な意見等）
H26	科学館事業（中核事業）と地域拠点事業の二本柱を、スタッフが意識し具体的に行動化できるよう目標カードを導入した。グループ目標・チーム目標・個人目標を期首に定め、各リーダーのもとP D C Aサイクルによる目標管理を実施した。 事業予算を精査した年間計画を各グループに提示し、担当者の責任のもと、予算の裏付けをした上で事業の計画を進めることを重視し、事業推進管理を図った。	スタッフの中には、自主企画の意味や予算の執行の本質的な理解が不得意なものも存在するため、各リーダーの指導の下、本来の意味を理解した上で実質的な活動ができるよう改善を図りたい。目標を達成することが利用者中心を実現することにつながることを実感させたい。	A	A	目標カードの導入は、個人個人のミッションを明確にし、運営メンバー全員の事業ベクトルを合わせるためには有効なツールであり、平成26年度の事業結果を見ると、確実に成果が出ていると思われる。また、ボランティアをはじめ、地域企業・研究機関から多くの人的支援を得ていることは、体制整備の面からも大きな力を得ている。この点も大いに評価したい。
H27	第2次基本計画のコンセプトの理解が、目標カードに個々が具体的に地域づくりを目標として記述することによって浸透し、また1次評価をチームリーダーに任せられた結果、チームのベクトルも揃い地域づくりを意識した活動が出来つつある。また企画面では、ほぼすべての企画展はスタッフが企画・製作・運営することを継続しており、またスタッフの立案した新たなプログラムも数多く実施される等、スタッフのスキル向上が顕著に現われてきている。マーケティング・広報意識も担当者とのコミュニケーションがスムーズになり効果をあげている。地域づくりの意識の結果が、地域の団体との連携が広がっており、地域市民個人との顔が見えるネットワークも構築されてきている。	今まで未着手であった外部資金活用に関し、その活用に関わるコストと導入のメリットを含め調査・検討を開始する。また、館施設の有効活用と新たな収入源確保のため自主事業の実施を拡大する。 目標カードのしくみにより、地域づくりを日常的に意識する文化を創りたい。またそれに合わせた館スタッフのスキルを更に向上するため、乃村工藝社が運営している他館を始め、外部施設での研修の機会が増やし視野の拡大を可能とするよう計画する。さらなる利用者増をにらんで戦略的に人員計画・育成計画を進める。	A	A	効率的な組織運営において、目標カードが機能し成果をあげているとともに、企画展の立案・製作・運営をスタッフが継続して実施することにより、「経験知」が組織に蓄積され、さらなるスキル向上が期待できる。 外部資金の活用と共に、巡回展の企画製作とその運用により他園館との連携を強化し、効率的なP Rと当館の外部評価の向上にもつながるものと期待している。
H28	今年度は東京都環境局と共催で、東京都が進めている「水素社会」をテーマに、水素イベント「つくる、うごかす、あそぶ～水素は未来のエネルギー！」を開催した。東京都と新たな連携の枠組みをつくり、相互の責任と費用負担を明確にした新規の取組みとして捉えている。 また、以前から懸案であった乃村工藝社が指定管理をしている他の施設との連携や、企画展の巡回は漸く進み始めた。	乃村工藝社が指定管理をしている他の施設との連携は、現時点では、多摩六都科学館が他館を支援するケースが多い状況にあるが、今後はお互いにWin-Winの連携を進める。	A	A	指定管理者が運営している他の施設で、多摩六都科学館のオリジナル・コンテンツ（企画展示）を巡回させる動きもあり、今後は収入面での期待も持てる。こうした連携強化による取組は評価できる。また、他機関や団体との共催により、物的支援やソフト面での支援等を獲得できており、直接的ではないが財政支援に繋がっている点も評価したい。 科学館の目的に適合した補助金・助成金の獲得に努力の余地はあるが、それよりも共催事業による事業の拡大を優先すべき時期と思われる。 さらなる発展は、5市との連携強化や教育・産業分野における連携が鍵となるのではなかろうか。今後の課題として検討してほしい。
中期 3カ年	この3年間は利用者が増え続けたため、財政面では比較的余裕があり、常設展示の充実、業務環境の改善等の投資を図ることができた。 また、組織体制の充実と、スタッフのスキルと意識の向上は飛躍的に高まっている。	平成29年度以降は、利用者が更に増えていくことは非常に厳しいと考えられる。 指定管理第2期開始前に組織変更を実施した。今後、各グループリーダーの責任と権限をさらに広げ、より投資と費用を峻別する効率的な組織運営を図る。 また外部と連携した活動を増やすと共に、新たな収入の方策を拡大模索する。	A	A	補助金を活用した地域発見事業は成果を挙げている。また、一時的な助成金以外でも、東京都との共催による新規事業への取組によって高い事業価値を生み出すことができてきている。 スタッフのモチベーションを維持し、人材育成にも成功している。その成果として、活気ある展示環境を創り出し、ボランティアとの連携も深まっていると言えよう。また、指定管理者は、適切な組織体制整備・労務管理・投資を行っている点も評価したい。今後も効率的で安定的な組織運営を進めてほしい。 平成29年度以降の利用者の大幅な増加は、限界に近いと思われる。今後は、利用者増ではなく、科学館の存在意義を高める方向にシフトすべきであろう。また、利用者増だけに頼らない収入拡大は、科学館の内容充実とセットで取り組んでほしい。

1. 事業目標ならびに事業方針 (2頁、5頁、8頁参照)

2. 中期の重点戦略ならびに業績指標

3. 評価結果・指標の実績結果

事業領域	重点戦略	中期で重点的に取り組む戦略	業績指標	定量	検証方法	中期目標 (自)	H26	H27	H28	中期3カ年	H25調査
							実測値	実測値	実測値	実測値	参考値
科学館事業 (中核事業)	● 専門性を基本とした上で、科学を通して得られる楽しさや感動、インスピレーションを重視した事業を行います。 ● 館内だけでなく、地域全体にも活動フィールドを拡げ、多くの方が科学の楽しさを体験できるよう、アウトリーチ活動を推進します。 ● 圏域内にサテライト (科学教育の場) が拡がっていくことも将来展望とします。 ● 多様なテーマを科学的なアプローチで探求し、科学に興味のない方でも来てみたいと思わせる事業展開を図ります。敷居を低くし、科学への興味を引き出す場をつくりだします。	● すべての面において、コミュニケーションを重視した事業運営を行います。また、企画展の成果を生かし、常設展示の更新・充実を図り、ひとりでも多くの方が科学を楽しめる場づくりに努めます。	● 科学への興味喚起度 (市民モニターが検証・定性的)		D		検討	A+	A+		
		★ 次期指定期間でのアウトリーチ活動の需要ならびに重要性を検証し、業務基準に定める方向性と業務量を検討します。	● 業務基準書改訂に向けた検証	B	検討/実施	検討	実施	実施			
		★ 市民の自発的な活動に注目しつつ、実現可能策を検討します。	● 圏域内のサテライトのあり方や可能性に関する検討	B	検討/実施	検討	検討	検討			
		★ 圏域5市への働きかけや協働体制強化に努めます。	● 行政への働きかけや体制整備に向けての取組	B	検討/実施	実施	実施	実施			
			■ 「誰もが科学を楽しめる科学館」としての評価 (定量的)	*	E					5.49	
			■ 「誰もが科学を楽しめる科学館」としての評価 (定性)		F					A	
			■ 圏域市民の科学リテラシーの向上 (科学への興味喚起度) (定量的)	*	E					4.99	
			■ 圏域市民の科学リテラシーの向上 (科学への興味喚起度) (定性)		F					A	
			■ 科学の担い手の育成 (定性)		F					A+	
			■ 「科学館での体験を通して、考え方や生き方に変化が生まれたか」 ■ そのような事業を行っているか (定性)		F					A+	
地域拠点事業	● 地域の人々が立場を変えつつも人生を通して、科学館ボランティアや友の会等の自主的な活動によって成長し、社会貢献し、自己実現できるよう支援活動を行います。 ● 科学館をもっと気軽に利用してもらえよう、無料ゾーン・有料ゾーンの設定を変更し、無料ゾーンの充実を図ります。 ● 圏域市民のための施設として認知されるよう、施設の貸出しや場の提供に向けた条例の改正や規程の整備を行います。	★ 市民モニターのみを事業評価に組み込めるか試行をはじめ、導入の検討を行います。	● 事業評価における市民モニターの導入実施		B	検討/実施	実施	実施	実施		
		★ 無料ゾーンの充実を図るため、長期的な観点で施設の改修計画を検討します。	● 施設構成および改修計画の検討	B	検討/実施	検討	検討				
		★ 施設の貸出などが可能な施設とするために、条例や規程の見直しを始めます。	● 貸出の需要、ルールなどの検討	B	検討/実施	検討	検討				
			■ 生涯学習施設としての評価 指標：各世代にわたって生涯学習の推進に貢献できる科学館	*	E					4.57	3.94
			■ 地域の交流拠点としての評価 指標：地域の人々が世代を超えて交流できる科学館	*	E					4.46	3.85*
			■ 「多くの圏域市民が参加し盛り上げていける科学館」としての評価	*	E					4.17	
			■ 「多くの圏域市民が参加し盛り上げていける科学館」としての評価	*	F					A	
	● 地域の自然・文化・歴史・産業など様々な資源を、地域の皆さんと協力しながら、科学的な観点から価値づけ、その価値を広く発信し、さらに新たな地域資源をつくり上げていきます。 ● 地域の学術機関や地域産業との連携を深め、協働で多摩六都圏域の特徴を基にした「地域づくり」事業の推進を図ります。 ● 多摩六都圏域だけでなく、多摩地区全体にも視野を広げ、気づかずに見過ごしている資源 (地域づくりを実践できる創造的な人材やソフトも含む) の掘り起こしを行い、共有できるしくみを整備します。 ● 長期的・間接的な効果として、科学の担い手の育成、新たな産業創出も展望として掲げ、事業の展開を図ります。	● 今後も、協働体制で地域資源をテーマにした様々な企画展や教育普及活動を開催し、地域内外に発信し続けます。	● 多摩地域の価値を見出せる事業の実施 (定性)		D		検討	A	A		
		★ 次期指定管理期間における「地域づくり」事業を業務基準書の中に位置づけ、準備を開始します。	● 業務基準書の改訂	B	検討/実施	検討	実施	実施			
		★ 圏域の文化施設・研究機関等が連携・協働事業に取り組みやすくなるために、ネットワークや協議会などのしくみづくりを推進します。	● 協働体制の整備	B	検討/実施	検討	実施				
	★ 地域資源のデータベース化の検討も開始します。	● データベース整備に関する検討	B	検討/実施	検討	検討					
	★ 長期的な観点で、体制整備を図っていきます。	● 長期的な観点を持って取組	B	検討/実施	検討	検討					
		■ 「地域の振興に寄与できる科学館」としての評価 (定量的)	*	E					4.9	3.87**	
		■ 「地域の振興に寄与できる科学館」としての評価 (定性)		F					A		
		■ 「地域資源を生かした運営」に対する評価 指標：地域の資源 (自然・文化・ひと等) を生かした運営を実践する科学館	*	E					4.94		

指標の平均値：4.94

*類似指標：地域コミュニティの核となる科学館
**類似指標：地域の文化振興に寄与できる科学館

4. 評価結果（定性評価）

	自己評価			外部評価	
	今年度の取組結果・成果	課題・今後の取組方針	目標の達成状況	評価	総評（総合的な意見等）
H26	中期的な成果指標について評価手法の検討を行い、市民モニターの試行を行った結果、モニター制度や業績評価の手法などで評価システムを改善できた。	中核事業や地域へ展開していく活動の社会的価値を、利用者やスタッフの「変化」と「成長」を通してモニタリングし、内部のマネジメントに反映させたい。	A	A	組合の場合、長期的な観点からの取組が多いため成果が見えづらいが、早急に取り組むべき課題であった市民モニターの導入実施に着手したことを評価したい。
H27	中核事業のコミュニケーションを基軸とした学習活動等の評価に市民モニター制度を適用することで、これまで評価の難しかった科学館への興味喚起度や地域社会への貢献について、利用者（圏域市民）の目線で検証することができるようになった。	長期的には、市民との対話を通じた科学館経営の新たなモデルを作ることを目指す。短期的には、市民モニターの評価を事業評価活動全体の中で適切に位置付け、着実な運営改善に結び付けていくことが課題である。	A	A+	市民モニター制度は、科学館のステークホルダーである市民の声を直接聞ける制度であり、貴重な意見が多数寄せられており、高く評価できるものである。 子どもをもつモニターについては、数年後に追跡調査をかけることにより科学館の教育的な効果を把握することが可能になると期待している。
H28	市民モニターによる継続的な評価活動を推進し、事業評価を行うことに留まらず、指定管理者との話し合いによって科学館の運営に市民(利用者)の意見を直接反映させる仕組みができつつある。地域のニーズを考慮し、学校、児童館、公民館、お祭り、自然観察会等でアウトリーチ活動を行っている。受入側との連携を重視し、継続的な学びの機会をつくれるよう心掛けている。シニアキャンペーンで構成市の会合でのPRや施設訪問を行った他、グルメフェスティバルでは各市の産業振興、商工会等との連携を進め、新規利用者の来館を促進した。	アウトリーチ活動は事業量(回数)よりも学習活動としての波及効果や連携の強化にポイントを置いて評価する必要がある。 コミュニティカフェによるサードプレイスの実現に着手した。半面、指定管理者の各業務(量)が最大化していて、事業提案書にない取組みである施設貸出しや無料ゾーンについては、目標を定めず継続して考慮していくこととしたい。	A	A+	市民モニター制度を実施することによって建設的な意見を継続的に得て改善につなげている点や、アウトリーチ活動を継続的に実施できている点を評価したい。 アンケート結果によると50代、60代の利用者が各々4～5%と特に少ない。この層の取り込みが今後の課題と言えよう。 設置者としての立場から、圏域の行政・市民の動向を俯瞰し、適切に指定管理者を指導している。今後さらに圏域の様々な地域資源との連携を主導してほしい。
中期 3カ年	第2期指定管理者の選定・指定を実施し、業務基準書で地域拠点事業の推進を明記し、提案書にさまざまな事業が提示されている。地域の大学、研究機関、博物館、図書館等の専門性のある機関との連携を軸に、継続的に取組んでいる。	圏域内サテライトは指定管理業務では困難を伴うが、地域拠点事業の長期的成果として、地域での学習活動を担う人材が現れることを視野に入れて進めていく。	A	A	第2期の指定管理者の選定・指定を適切に行い、地域連携の拠点機能も充実し始めている。また、市民モニター導入によって、現場改善などの成果をあげており、今後も期待できるしくみと言える。 科学館の長期的な成果や波及効果(インパクト)は、友の会メンバーなどの将来の活躍から検証できると思われる。今後は、長期的な観点から評価できるしくみや方法論の構築をめざしてほしい。 この3カ年、設置者としての立場から、圏域の行政・市民の動向を俯瞰し、適切に指定管理者を指導している。今後さらに圏域の様々な地域資源との連携を主導し続けてほしい。長期的には、圏域全体の社会状況の変化に対応する視点を持って取り組むことも重要と言えよう。

1. 事業目標ならびに事業方針 (11頁、14頁参照)

2. 中期の重点戦略ならびに業績指標

↓凡例：●は指定管理者、★は組合、色の濃度は重要度（濃い方が重要度が高い） 赤字：重点的な業績指標と重複する指標

↓別表参照

事業領域	重点戦略	中期で重点的に取り組む戦略	業績指標	定量	検証方法	中期目標	別表参照			中期3カ年	H25調査
							自	実測値	実測値	実測値	参考値
マーケティング	● 利用状況やニーズを分析し、認知度・利用度・満足度を高める取組みを中長期的観点から推進します。利用者を第一に考え、常に質の高いサービスを提供します。市民や利用者の声を長期的に反映させやすいしくみを検討します。	★ 運営協議会の見直しを行います。	● 利用者の声を反映した改善を可能とするしくみ検討に関する取組		B	検討/実施	検討	検討	検討		
	● 多摩六都科学館が圏域市民のために運営されている施設であることの認知度をアップさせる方策を行います。広報については、エリア戦略とプロモーション戦略を検討し、効果分析しつつ、有効かつ効率的な方法で展開します。	★ 3カ年目に、圏域市民の科学館の認知度・利用度・満足度の調査を行い、平成25年度データと比較し、広域効果の検証を行います。	● 圏域市民の科学館の認知度	*	E					91.9%	85.1%
	● 利用度を高めるためにアクセスの改善を図ります。圏域内のバスの運行やコミュニティサイクル等の導入を検討します。	★ 上記に協力しつつ、その他のアクセス改善策も積極的に検討を行います。	● 圏域市民の科学館の利用度（全体・未認知者も含む）	*	E					67.2%	55.9%
	● 障害のある方も、外国の方も、誰もが利用しやすいよう、ユニバーサルデザインに基づいたバリアフリー・多言語対応等を推進します。	★ 今度増えるであろう外国人の対応については、現況を見つつ、改善の検討を行います。	● 圏域市民の利用時の満足度（満足+どちらかと言えば満足の割合）	*	E					92.6%	89.6%
	● 館名のわかりづらさは、愛称やキャッチコピー、VI（ヴィジュアル・アイデンティティ）等を導入し、コミュニケーション計画の改善を図ります。	★ 次期指定管理までに愛称やVIなどに関する将来展望を検討します。	● 「交通の便を改善し利用しやすい科学館」としての評価	*	E					3.94	
			● 外国人対応などのユニバーサル化に向けた検討		B	検討/実施	検討	検討	検討		
			● 将来展望の検討		B	検討/実施	検討	検討	実施		
		中期的な指標	「自分の科学館/地域の科学館として価値ある存在」としての評価 指標：ここ3年間の活動は、ご自分にとって、家族にとって、地域にとって価値あるものだったと思われますか。	*	E					5.8★	
			「市民から愛される科学館」としての評価 指標：自分の科学館・地域の科学館として市民から愛される科学館	*	E					5.48	
財政計画 体制整備	● 負担金・利用料金以外の外部資金の導入・活用策（寄附金、助成金、補助金の確保の他、ネーミングライツ、賛助組織など）を検討します。	★ ネーミングライツの検討、圏域5市が共同で実施する助成事業を継続して実施できるよう尽力します。	● 外部資金の導入策・活用策の検討・実施		B	検討/実施	検討	検討	検討		
	● 常に魅力的な施設であるために、展示やプラネタリウム等の定期的なリニューアルが実現できるよう財政計画を検討します	★ 施設の長寿命化やリニューアルを見据えた長期的な財政計画を検討します。	● 財政計画の検証		B	検討/実施	検討	実施	検討		
	● 駐車場が不足しているなど施設に関する課題を解決するための取組みを行います。交通機関の協力や投資の必要もありますが、長期的な観点から改善策を検討します。	★ 新たな駐車場の整備を行います。緑環境にも配慮した新しい形の駐車場の整備を市民や指定管理者とともに行います。	● 施設の長寿命化計画の検証・実施		B	検討/実施	検討	実施	検討		
	● 継続的なコンテンツ開発、優秀な人材の確保など、ソフト整備も長期的観点に立ち、財源確保を図ります。	★ 働きやすい労働環境を維持するためにも、指定管理者が十分に財源を確保できるよう、監理・助言・評価・支援を行います。	● 緑環境に配慮した駐車場の整備		B	検討/実施	実施	実施	実施		
			● 適切な監理の遂行		B	検討/実施	実施	実施	実施		
		中期的な指標	持続可能な財政計画・体制整備の推進（定性的評価）		F	検討/実施				A+	A+

指標の平均値：4.94
★個別設問で測定

4. 評価結果（定性評価）

	自己評価			外部評価	
	今年度の取組結果・成果	課題・今後の取組方針	目標の達成状況	評定	総評（総合的な意見等）
H26	駐車場整備やアクセスサービス等で、より利用しやすい施設となるための方策に取組んだ。 構成市とのさまざまな連携・協働の橋渡しを進めている。	圏域市民の調査を実施して、広報やマーケティングのアウトカムを中期的に検証することが今後の課題。 引き続き、構成市の幅広い要望に応えられるよう努める方針である。	B	B	平成26年度中に完成予定であった駐車場の整備や施設の長寿命化計画の策定が翌年に持ち越された点、運営協議会の見直しなども検討段階止まりだったことから、B評価とする。
H27	駐車場整備事業の新設部分について完了し、駐車量の供給が十分になったことで利用者増につなげることができた。 通常業務のほか整備事業の過程でも指定管理者と十分に協議することで、適切な監理を遂行できた。	平成28年度からのコミュニティバス経路の変更に伴い、公共交通の利用をアピールするほか、アクセスの改善に向けた情報収集に努める。 また、ユニバーサルデザインとVIの推進をさらに検討したい。	A	A	科学館の利用者にとって、駐車場のキャパシティの拡大は潜在的な利用需要の掘り起こしにつながった。 新しいコミュニティバスのルートはその維持のためにも、公共交通機関の利用者に対するインセンティブについてなんらかの検討を期待する。

4. 評価結果（定性評価）

	自己評価			外部評価	
	今年度の取組結果・成果	課題・今後の取組方針	目標の達成状況	評定	総評（総合的な意見等）
H28	<p>駐車場整備事業の最後となる館庭のバス停留所等整備工事が完了した。また、西東京市のはなバスのルート変更で花小金井駅まで延伸されて、公共交通のアクセスが向上した。</p>	<p>アクセスをより改善するため、路線バスの誘致など、構成市やバス会社と話し合いを進める必要がある。借地駐車場を返還したため、ピーク時に路上待機車両等が発生しないよう対策を練る必要がある。</p>	A	A	<p>駐車場の整備によって利用者の利便性や安全面での改善がなされた。また、はなバスのルート変更で公共交通機関のアクセスが改善されたことは評価したい。しかし、借地駐車場の返還により駐車台数が減少することから、マイカー利用者の利便性についてはさらなる対策が必要と言えよう。</p> <p>西武池袋線沿線やバス路線のないエリアからのアクセス改善は、依然として大きな課題となっている。</p>
中期 3カ年	<p>開館以来課題であった駐車場整備が完了したことで、将来にわたる安定的な運営基盤が整った。指定管理料などの経常的運営財源を確保しつつ、施設の効用とサービスの拡充に最大限努めた。</p>	<p>駐車場整備事業費に総額7億6千万円余りを要しており、施設設備の老朽化対策や更新費用に対して財源が大幅に不足している。維持補修費の財源をどのように確保するかが大きな課題である。</p>	A	A	<p>駐車場整備事業に踏み切ったことは評価できる。また、バス停の整備、はなバスのルート変更など、利便性を高める努力も高く評価したい。</p> <p>施設の老朽化対策については、5市との協議等も含め、早めの課題解決が必要な時期に来ており、財源確保など急務と言える。</p> <p>ここまでは基盤が整ったと言えるが、集客施設においては、常に施設の状態を維持しながら、新鮮さを失わないようにするための新たな投資が必要である。長期的な計画と財源の確保に注力してほしい。</p>

1. 長期的な事業目標ならびに事業方針

第2次基本計画	
使命	活動理念
<p>多摩六都科学館は、地域の皆さんをはじめとする様々な方々とともに、誰もが科学を楽しみ、自分たちの世界をもっと知りたいと思う多様な「学びの場」をつくりあげていきます。</p> <p>そして、多摩六都科学館は、活動の幅を広げ、皆さんをつなぎ、「地域づくり」に貢献することをめざします。</p>	<p>科学でつながるとともに、誰もが科学を楽しみ、自分たちの世界をもっと知りたいと思う多様な「学びの場」をつくりあげていきます。</p>
指定管理者・事業計画	
H26年度～H28年度（中期）事業の基本方針	
<p>多摩六都科学館第2次基本計画の使命の『多様な学びの場』の創出、『地域づくり』の支援をめざすため、活動のテーマを引き続き「DO!サイエンス」とします。利用者自らが積極的かつ主体的に関わり、スタッフとともに「科学する」を実感できる場と機会の提供をめざします。今後は、「市民の科学館/Science Center of the people」を到達点とし、事業展開をめざします。</p>	

2. 重点的な業績指標（KPI）

評価軸	重点的な業績指標（Key Performance Indicators, KPI）	検証方法	中期目標（目標値）	H24	H25	H26	H27	H28	中期3カ年 実測値	H25調査 参考値
				実測値	実測値	実測値	実測値	実測値		
利用状況・経営状況	● 利用者数	*	A	リニューアル後の最高値18万人をキープ	181,715人	208,999人	206,076人	237,707人	253,471人	
	● 利用料金収入（事業収支）	*	A	90,000千円	110,329千円	123,626千円	117,600千円	134,327千円	139,809千円	
	● 利用料金比率（利用料金収入/全収入）	*	A	25%以上	27.9%	30.3%	28.9%	31.7%	32.2%	
	● 外部委託費比率（外部委託費合計/全支出）	*	A	20%以下	17.2%	16.7%	15.1%	14.9%	14.6%	
	● 利用者当たり管理コスト（全支出/利用者数）	*	A	2,000円以下	2,074円	1,859円	1,898円	1,675円	1,628円	
	● 利用者当たり組合負担コスト（指定管理料/利用者数）	*	A	1,500円以下	1,545円	1,266円	1,321円	1,145円	1,074円	
直接的な事業効果	● 利用者・参加者の満足度（総合的な満足度）	*	C	80%以上が満足	91.9%	89.7%	88.9%	89.8%	83.8%	
	● 「科学の楽しさを実感した」と答えた人の割合	*	C	今後、利用者調査で測定予定						
	● 科学への興味喚起度（利用者調査・定量）	*	C	80%以上が満足（平成27年度から）				90.7%	90.2%	
	● 科学への興味喚起度（市民モニターが検証・定性）		D					A+	A+	
	● 幅広い年齢層からの支持	*	C	中高生・20代の青年層と、50代以上の熟年層の総利用者に対する割合をそれぞれ10%程度を維持する。	-	-	青年層 10.1% 熟年層 8.6%	青年層7.6% 熟年層11.1%	青年層5.8% 熟年層9.7%	
	● リピーターの比率の維持	*	C	50%～60%を維持	-	55.4%	54.1%	53.5%	59.1%	
	● ファミリー層の新規利用者の増員をめざした取組		B	検討/実施			実施	実施	実施	
	● 年齢別プログラムや事業の取組数	*	A				小学校低学年以下向け 294日 40,511人	小学校低学年以下向け 延275日 40,088人	小学校低学年以下向け 316日 61,323人	
	● 「多摩地域の価値を見つけた」と答えた人の割合	*	C	今後、利用者調査で測定予定						
	● 多摩地域の価値を見出せる事業の実施		D					A	A	
● 「誰もが科学を楽しめる科学館」としての評価（定性）		D					A	A		
長期的な成果 中期的指標	■ 圏域市民の科学館の認知度	*	E						91.9%	85.1%
	■ 圏域市民の科学館の利用度（全体・未認知者も含む）	*	E						67.2%	55.9%
	■ 圏域市民の利用時の満足度（満足+どちらかと言えば満足の割合）	*	E						92.6%	89.6%
	■ 「誰もが科学を楽しめる科学館」としての評価（定量）	*	E						5.49	
	■ 「誰もが科学を楽しめる科学館」としての評価（定性）		D						A	
	■ 圏域市民の科学リテラシーの向上（科学への興味喚起度）（定量）	*	E						4.99	
	■ 指標：生活の中で役立つ科学の知識が身につく、世界の課題を科学的な観点から考えることができる科学館	*	E						A	
	■ 科学の担い手の育成		F						A+	
	■ 「科学館での体験を通して、考え方や生き方に変化が生まれたか」そのような事業を行っているか（定性）		F						A+	
	■ 「多くの圏域市民が参加し盛り上げていける科学館」としての評価（定量）	*	E						4.17	
	■ 「多くの圏域市民が参加し盛り上げていける科学館」としての評価（定性）		F						A	
	■ 「自分の科学館/地域の科学館として価値ある存在」としての評価指標：ここ3年間の活動は、ご自分にとって、家族にとって、地域にとって価値あるものだったと思われませんか。	*	E						5.8★	
■ 「多摩六都科学館の活動が圏域市民にとって、地域にとって価値あるものであった」という観点からの評価		F						A+		
■ 「地域の振興に寄与できる科学館」としての評価(定量)	*	E						4.9	3.87**	
■ 「地域の振興に寄与できる科学館」としての評価(定性)		F						A		

指標の平均値：4.94

★個別設問で測定

**類似指標：地域の文化振興に寄与できる科学館

3. 評価結果・実績値（定量評価・定性評価）

4. 評価結果（定性評価）

	自己評価			外部評価	
	今年度の取組結果・成果	課題・今後の取組方針	目標の達成状況	評定	総評（総括的な意見等）
H26	<p>中核事業の体験型コミュニケーションは、コンテンツの充実が図られ、アンケートでも順調に進化していることが実感できる結果となっている。</p> <p>地域連携の拡張に努めた結果、市民や企業との協働は、おむね良好に進んでおり、今後も期待できる成果を上げたとと言える。</p>	<p>未就学や小学校低学年層への体験型プログラムの顧客満足度はほぼ達成できたが、高学年、中高大・シニアへのステップアップ等、多様な学びの場の構築が今後の課題である。体験活動時の双方向の対話を重視したい。</p> <p>地域連携は、事業の質をさらに深める。</p> <p>駐車場整備事業を完了させ、施設の計画的な補修等を組合と密に連携し実施していく。</p>	A+	A+	<p>駐車場のマイナス要因がありながら、20万人を超える利用者数で得ることができた事業内容を高く評価したい。また、通年利用者数が減る2月～3月に学割などの方策をとり、利用者数を底上げする成果をあげている点も評価に値する。平成25年度策定の基本計画で、新たな柱として掲げられた地域連携事業についても、運営メンバーが一丸となって取り組み、初年度でありながらめざましい成果をあげた点を大いに評価したい。</p>
H27	<p>『科学を楽しむ』を基本とした体験型プログラムの内容充実とコミュニケーションスキルの向上、5回更新される生解説のプラネタリウムが相乗効果をあげており利用者の総合的満足度はほぼ90%を確保している。常時開かれているボランティアのからだラボも好評。各コミュニケーション手法が利用者増に繋がっている。</p> <p>上記各事業の企画担当と情報共有し利用者目線でタイムリーなターゲットマッチングした科学館ニュース、HP、チラシ、新聞広告を打っている。新規ファミリー層獲得の取組として、転入者に対する、各市からの案内書類内に科学館のパンフレットを入れて配布している。</p>	<p>マーケティングの項でも記載しているが、中学生～20代の利用者が少なく、この世代への対応が課題である。文化やアート系のプログラムの検討も含めコミュニティー、地域で起業など『地域づくり』に関連したことも検討する。小学生低学年以下、小学生高学年～中学生、中学生～大人と各世代向けプログラムはかなり充実してきている。アクティブラーニングやクリティカルシンキングなど教育界で課題になっている項目も含め、各プログラムの改善や新たなプログラムの開発を行う。</p> <p>地域の団体や市民との連携は、新たな連携先を開拓すると共に連携実績のある団体のサポートや地域づくりに向けての内容の見直しや改善による連携の進化を進める。</p>	A+	A+	<p>来館者数が過去最高となったこと、利用料金比率が過去最高の31.7%を示したこと、市民モニターの評価も高いことは、すべて大きく評価できる。市民モニターから得た利用者視点の有益なアドバイスをすぐに実行に移すとともに、科学館活動の全体的なレベルアップを果たし、来館者増の数字以上に地域科学館としての使命を果たしていると考えられる。</p> <p>ターゲットごとにプログラムを充実させる上でも、館で働くスタッフの高いモチベーションを維持する施策も検討に値すると思う。</p>
H28	<p>16万人台から5年目にして25万人以上の利用者を迎えることができたのは、地域の方々から価値を認めていただいた証である。地域づくりに取り組んで3年目でスタッフの地域づくりに対する認識はようやくスタートした状態だが、市民と研究施設との連携は着実に進展している。</p>	<p>ファミリー向けプログラムの充実で過去最高の利用者を達成できた。今後は、専門性とエンターテインメントの両スキルを地域づくりにターゲットに定めてプログラムの価値を高める。自立化の進んだボランティア活動を地域連携の核に据えて、名実ともに市民の科学館を目指す。</p>	A+	A+	<p>第2次基本計画（中長期計画）に沿って、行き当たりばったりではなく、明確な見通しを立てて、これだけの成果を出していることは高く評価できる。</p> <p>利用者増の結果は、これまでの取り組みの大きな成果と言える。25万人以上の来館者を率直に評価したい。また、地域連携の「種」は着実に芽（成果）が出てきていると思われる。これらの成果も大いに評価したい。</p> <p>組合・指定管理者の組織が全体的にバランスよくかみ合っており、事業推進が成されている。地域における科学館の認知・存在価値も高まっているように思われる。</p> <p>利用者の増大の他、市民モニター制度を定着させつつある点や市民モニターによる評価の高いことなどから、A+とする。</p>
中期 3カ年	<p>2期目の指定管理者公募プロポーザルを機に、地域づくりの意味の検証を行い、それをスタッフ全員が共有。さらに各自の職制と専門を反映した地域づくり行動計画を個別に年間目標シートに記述。このベクトル合わせで中核事業と地域拠点事業の連係が可能となった。</p>	<p>利用者数の目標達成も重要だが、利用者が体験する価値品質の向上が必須。そのためには全スタッフがそれぞれに専門性を高め、地域を意識した多様な学びの場の具体的な提供が課題となる。</p>	A+	A+	<p>展示場に身をおくと、科学館の活気と来館者の学びを実感できることが素晴らしい。</p> <p>運営サイドの取組姿勢（課題を掘り起こし、解決に向けて計画的に取り組む等）も着実に進化していると感じる。この3カ年の成果は、スタッフが運営理念を自己のものとして活動した表れだと言えよう。また、自立化の進んだボランティアによる科学館の能動的な利用とその効果にも、今後大いに期待している。</p> <p>平成26年度から平成28年度の3カ年で、利用者数の大幅な増加は大きな成果であり、高く評価すべき点と言える。今後は、シニア層の平日利用促進や、学校の部活動との連携による中高生の利用促進などによって、さらなる発展をめざしてほしい。</p> <p>「地域づくり」は確実に推進している。全体としてコンセプトが明確になり、その方向に施設全体が向かっていることを高く評価したい。</p>

本報告書2～14頁の「2. 中期の重点戦略ならびに業績指標」一覧内の「事業計画」列に記載されている番号は、「指定管理者事業報告書」内で、その指標に該当する事業項目を指す。詳細は「指定管理者事業報告書」を参照。

多摩六都科学館事業一覧

平成28年度・指定管理者事業報告書・目次		該当頁
I 概要		
	1 指定管理者	1
	2 施設概要	3
	3 施設の利用状況	6
II 指定管理業務事業報告		
	1 科学館事業	8
	1-1 調査研究・資料収集保存活動	8
	1-2 展示活動	11
	1-3 天文映像活動	20
	1-4 参加体験学習活動	24
	1-5 学校連携・支援	25
	1-6 人材育成・研修活動	31
	2 地域拠点事業	40
	2-1 地域の交流拠点活動	40
	2-2 地域資源創造・魅力発信活動	46
	3 マーケティング	47
	3-1 顧客開発	47
	3-2 市場調査	48
	3-3 広報・PR活動	49
	4 運営管理	52
	4-1 チケット発券・利用案内	52
	4-2 安全管理業務	52
	4-3 設備管理業務	53
	III 収支報告	57
	資料	60
	各事業の参加状況・利用状況等	60
	利用者アンケート集計結果	71

多摩六都科学館組合事業評価委員会条例

平成16年3月3日
条例第2号

(設置)

第1条 多摩六都科学館の事業評価を行うため、多摩六都科学館組合事業評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、管理者の諮問に応じ、次の事項について調査し、検討し、及び答申する。

- (1) 主要な事業成果の検証について
- (2) その他管理者が必要と認める事項

(組織)

第3条 委員会は、学識経験を有する者のうちから、管理者が委嘱する委員5人以内で組織する。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、2年以内とする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により定める。

2 委員長は、委員会の会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(招集等)

第6条 委員会は、委員長が招集する。

2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 委員会に関する庶務は、多摩六都科学館組合事務局において処理する。

(補則)

第9条 この条例に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この条例は、平成16年4月1日から施行する。

多摩六都科学館組合事業評価委員会委員名簿（第6期）

多摩六都科学館組合事業評価委員会条例（平成16年条例第2号）第3条の規定に基づき、5人の委員に委嘱している。

役 職	氏 名	所 属
委員長	柴田 徳思	東京大学 名誉教授
副委員長	桧森 隆一	北陸大学 副学長・教授
委員	小谷 泰弘	東久留米市在住市民（科学館ボランティア会代表）
委員	坂本 和弘	多摩動物公園 副園長兼教育普及課長
委員	杉浦 幸子	武蔵野美術大学 芸術文化学科教授

多摩六都科学館組合市民モニター設置要綱

平成 27 年6月1日
決定

(目的)

第1 多摩六都科学館組合(以下「組合」という。)における事業評価活動を推進し、市民の理解と協力を得てニーズに適った効用の高い科学館運営を図ることを目的として、市民モニターを置く。

(職務)

第2 市民モニターは、次の職務を行う。

- (1)組合の依頼する調査等に協力し、意見を述べること。
- (2)市民モニター会議、研修会等に参加すること。
- (3)その他組合の事業評価活動と広聴活動推進に関して必要な事項に協力すること。

(定数及び委嘱)

第3 市民モニターの定数は、10名以内とする。

2 選任は、原則として公募により、年齢、地域等を考慮して、組合管理者が委嘱する。

(資格要件)

第4 市民モニターは、次の要件を満たす者とする。

- (1)満 20 歳以上の組合構成市の市民であること。
- (2)組合の公職者及び組合構成市の職員でないこと。

(委嘱期間)

第5 市民モニターの委嘱期間は、1年以内とする。

(委嘱の取消し)

第6 市民モニターが、次の各号の一に該当するときは、委嘱を取り消すものとする。

- (1)第4に定める資格要件を失ったとき。
- (2)辞退を申し出たとき。
- (3)職務の遂行がてきなくなったとき。
- (4)その他組合管理者が取り消す必要があると認めたとき。

(報償費)

第7 市民モニターに対しては、予算の範囲内で謝礼を支払うことかできる。

(庶務)

第8 市民モニターに関する事務は、組合管理課が行う。

2 管理課長は、必要に応じて、多摩六都科学館指定管理者と次に掲げる事項を協議する。

- (1)市民モニター会議・調査の課題の決定。
- (2)その他本業務運営に関すること。

(委任)

第9 この要綱に定めるもののほか、必要な事項については組合管理者が別に定める。

附則

この要綱は、平成 27 年6月1日から施行する。

市民モニターによる評価実施の目的

多摩六都科学館組合は、市民モニターによる評価は、下記目的のために実施する。

- 事業結果や定量的な調査では測れない指標について、圏域市民の立場から定性的に評価を行う。
- 定性的な実績指標について、中期的な観点から、年度毎の評価を行う。
- 多様な立場のステークホルダーからの支援を継続していくために、変化していくニーズや価値観を把握する必要がある。そこで、市民モニターを通して圏域市民の「支援開発志向」を定点で調査できる手段としても活用し、支援体制や協力体制のあり方やニーズの把握に役立つ。

多摩六都科学館組合事業評価 市民モニター名簿

市民モニターの人選は、多摩六都科学館のステークホルダーのうち、中長期的な観点から科学館事業を定性評価できる圏域市民10名の方々に依頼を行った。

No.	住所・所在地	性別	ステークホルダー種別
1	小平市在住	女性	市民・友の会・公募
2	小平市在住	女性	市民・友の会・公募
3	清瀬市在住	男性	市民・友の会・公募
4	小平市在住	女性	市民グループ
5	西東京市在住	女性	市民グループ
6	西東京市在住	女性	市民グループ
7	東久留米市在住	女性	事業協力者
8	東村山市在住	女性	事業者
9	東久留米市在勤	男性	地元機関・協力者
10	西東京市在勤	男性	地域メディア